

# 第 8 回 分離派 100 年 研究会

2015年9月14日（月） 13:30—17:00

京都大学 吉田キャンパス （詳細未定）

## 分離派建築会とウィリアム・モリス

杉山真魚（京都大学 助教）

19世紀末の英国においてアーツ・アンド・クラフツ運動を主導したことで知られるウィリアム・モリス（1834–1896）の思想や作品は近代建築の黎明期に広く参照された。分離派建築会のメンバーであった蔵田周忠も1926年の著書『近代英国田園住宅抄』の中でモリスによる「赤い家」を取り上げている。本発表では、分離派建築会が設立された時期に興隆をみた「改造思想」などに言及しながら、日本におけるモリスの受容過程の一端を振り返る。

## 「ジョン・ラスキン」とは誰か — 思想史記述の方法としての受容史

江本弘（東京大学 後期博士課程）

ヴィクトリア朝イギリスの思想家ジョン・ラスキン（1819–1900）の名は、その芸術・社会思想とともに、19世紀末ごろから広く世界に普及した。しかし、この一連の受容のなかで「ラスキン」が意味する幅は広く、建築論壇においては、その名はむしろ、論客たち自身の建築観を語る依代としての機能を持っていた。本発表では、日本を例にそのようなラスキン受容の性質を考察し、そこから浮かびあがる近代建築思潮の変遷を素描する。

参考：「日本の戦前建築会におけるジョン・ラスキン受容に関する研究」『建築史学』第63号，2014年9月

- 入場無料
- 定員 30 名（参加ご希望の方は、下記までご連絡ください）  
法澤（京都大学田路研究室）ta-hosawa@archi.kyoto-u.ac.jp
- 研究会後、懇親会を予定しています。